

# 5 かた語りつがれてきたお話とことば はなし

## (1) ふるさと香川 かがわの民話 みんわ

### おおさやまの こぼんだぬき

(善通寺市大麻山)

むかし むかし、おおさやまに  
こだぬきが すんでいました。

「いい てんきだ。

むらへ あそびに いこう。」

ちよこ ちよこ、

ちよこ ちよこ、

とこ とこ、

とこ とこ。

はしって いきました。



「あつ、しまった。」

ころころ、ころころ、

ころころ、ころころ、

すってん どん。

「おう、おう、

かわいそうにのう。」

「なんにも ないが、

あそんで おいで。」

日がくれました。

こだぬきは、山へ かえりました。

「どこへ いったんじゃ。」

こだぬきは、おじいさんや

おばあさんの ことを はなしました。

「まあ、まあ、そうな。

そらあ、よかったなあ。」



つぎの日

山には

どんぐりが

おちています。

かさ かさ、

かさ かさ。

「たくさん

ひろって もっていつて

あげよう。」



「おじいさん、おじいさん。」

「おばあさん、おばあさん。」

おじいさんも おばあさんも

るすでした。

「ここへ おいといて いのう。」

そのばん

「このどんぐり どうしたんじやろう。」

「まあかわいげな おみやげじやのう。」



つぎの あさ、

おじいさんと

おばあさんが

目を さいました。

「ばあさん。ばあさん。

たいへんじや。」

どんぐりが みんな

こばんに なって いました。

こだぬきの おかあさんが いいました

「それは ええこと したなあ。」

おとうさんも

よろこんで くれました。

こだぬきは、いい きもちでした。



『おおさやまのこばんだぬき』 普通寺市教育研究所編より  
文・白玖 武章 絵・川添 正次郎

## たぬきのばけくらべ

(高松市)

それは、むかしむかしのおはなしです。

屋島というところに讃岐の国で一番ふるい、太三郎というたぬきが住んでおりました。この俺さまこそは四国一の化け上手だといつも自慢しておりました。そして月のきれいな夜ともなると、いつもとくいの源氏と平家の合戦の場面を演じては、近くですんでいるたぬきどもを感心させておりました。ところが、となりの国、阿波というところに、これまた、ふるい大きなたぬきが住んでおりました。金長だぬきといって、化けることでは俺ほどのものはあるまいと、いつも自慢していたのであります。この両方のうわさが、お互いの耳に入りましたから大変です。

「こしやくな奴め。俺さまをさしおいて四国一とはなまいきな」お互いこう言いますので、では、本当の四国一を決めようということになるまでには、一時もかかりませんでした。

いよいよ決戦の日がきて、まずは阿波の金長だぬきから化けることにしました。

それで太三郎だぬきのほうは、道ばたの松の木の上で待っていることにしました。と、向こうから「下にい、下にい」と、殿さまの行列がやってきたのであります。



最初は、こりやまずいところだと思いましたが、ふと思いで出しました。何でも金長だぬきの十八番は、阿波の蜂須賀様の大名行列に化けることだったということ。

そして、気をとりもどし、なかなかうまく化けたわい、だが今に見ておれと、ブツブツいいながら大急ぎで木からとびおり、「もうええ、もうええ、こんどは俺さまのばんじゃ」と、さげびながら行列の前にずかずか進みました。

そのとたん「ぶれいものめ」と太三郎だぬきはぶたれるやら、けられるやら、さんざんなめにあい、ほうほうのていでにげだしました。

なんとこの行列こそ、本もので、気をゆるした太三郎だぬきは、もう二度と大勝負の化けくらべはしなかったとのこと。



文・絵 池原昭治

今のようにテレビやゲームのなかった時代、子どもたちは夏の夕方など、こしかけを持ち出しておじいさんやおばあさんのむかし話に耳をかたむけ、次はどうなるのか、はやく話してとせがんだものです。むかし話はだれが作ったのかはわかりません。わたしたち先祖がくらししているうち自然とお話になり、語りつがれてきたものです。そうした中で、いつのまにか、子どもたちは先祖のものの見方・考え方を学んだり、人としての生き方を学んだりしたのです。

## 子どもの守り神

(三野町)

昔のおはなしです。島の沖合いでふしぎなことがありました。

それは、夜になると歌声が聞こえてくるのです。あまり毎日夜おそく続くので気味が悪くなり、村のたくましく力持ちの若者が選ばれて出かけていきました。すると小さな舟に女がうずくまり、きれいな声でうたっているではありませんか。「こんなところで何をしとるんじや。」と、聞いただし



とところ、「わたくしは牛頭天王じや。遠いところから流れてきてきたが、もうだめじや。わたくしを島に祀つてくだされ。そうしたら、この村の子どもたちと牛馬を病氣からまもってやろう。」と言ひ残し、息たえてしまいました。さつそく、村の者は女を手厚くほうむり、鳥居をたてて「津島明神」としてまつたそうです。

文・絵 池原昭治

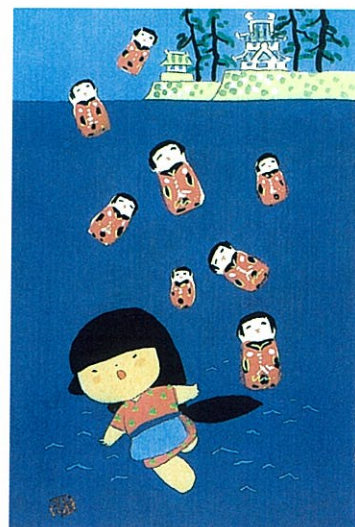
三野町大見にある「津島神社」は、夏にはやる病気を退散させる一番強力な神様とされ、夏祭りの日、子どもの健康を願った木版ずりの赤い旗をもった親子連れで一日中にぎわっています。

## 奉公さん

(高松市)

高松の城主 生駒の殿さまには、姫さまがいらっしゃって、その姫さまには、オマキという童女がつかえておりました。

あるとき、姫さまが、おもい病にかかれて、いろいろと手をつくしてみましたが、ちつともよくなりません。オ



マキは、姫さまがかわいそうでなりません。姫さまの病を自分につし、姫さまがよくなることをいのりつつ、はなれ小島に流されて行きました。そして、姫さまの病が治ると死んでいったのです。

文・絵 池原昭治

このオマキを形どつて「ほうこうさん」の人形が作られました。子どもが病氣になったとき、いったん子どもに人形をだかせて、海に流すと、病氣は治るとされています。また、むすめが嫁にくるときには、必ず母親がこの人形を持たせたとされています。

## 満濃池の龍

(満濃町)

むかしむかし、弘法大師がつくった満濃池というとても大きな池がありました。その池のそこには、龍がすんでいるといわれています。

ある日、龍が、池から出て、つつみの上で小さなへびに姿をかえて休んでいました。そこに近江の国(滋賀県)に住んでいる天狗がトビに姿をかえてやってきて、食べ物はないかと飛び回っていました。天狗はへびを見つけ、するどいつめでつかんでつかまえて食べようとしてしまいましたが、へびが体中に力をこめたのでかみくだくことができず、

そこで、比良の山奥にあるせまいほら穴におしこめました。一てきの水さえあれば、もとのすがたにもどり、空へ飛び出すことができる龍ですが、どうすることもできず、とほうにくれていました。どうしたものかと、考えているところへ、今度は比叡山の僧侶がさらわれてきました。その僧侶は、手にひしやくを持っていました。

「わたしは、比叡山の僧です。手を洗おうとしたら、天狗につかまり、水がめを持ったままここに連れて来られたのです。」

「わたしは、満濃池の龍です。わたしも油だんをしてつかまっ  
てしまいました。一てきの水もないので空を飛ぶことができ  
ません。」

僧侶は、龍から話を聞くと、ひしやくに残っていた一てき  
ばかりの水を、龍にかけてやりました。するとどうでしょう。  
へびになっていた龍は、みるみるうちにもとの立派な龍の  
姿にもどっていました。



もとのすがたにもどった龍は、ぐ  
んぐん空を飛んで、助けてくれた  
僧侶を比叡の山へかえしました。そ  
して、龍は自らをひどいめにあわせ  
た天狗をつかまえて、さんざんこら  
しめました。

一方、龍に助けられた僧侶は、龍  
の恩を忘れず修行をして、えらい僧侶になったそうです。  
そして、龍のために毎日お経をよんでやりました。そのた  
め龍のいのちは長らえ、大へん長生きしたそうです。

『満濃のすがた』 満濃町教育委員会編より

雨の少ない香川県は、古くから龍(龍神)は雲をよび、雨を  
ふらすと信じられ、池などには龍神伝説が数多く残っています。  
皆さんの近くにもたようなお話があるか、調べてみましょう。



みなさんも 自分たちのすんでいるところの  
民話を調べて 読んでみましょう。

【ことのいわれ】

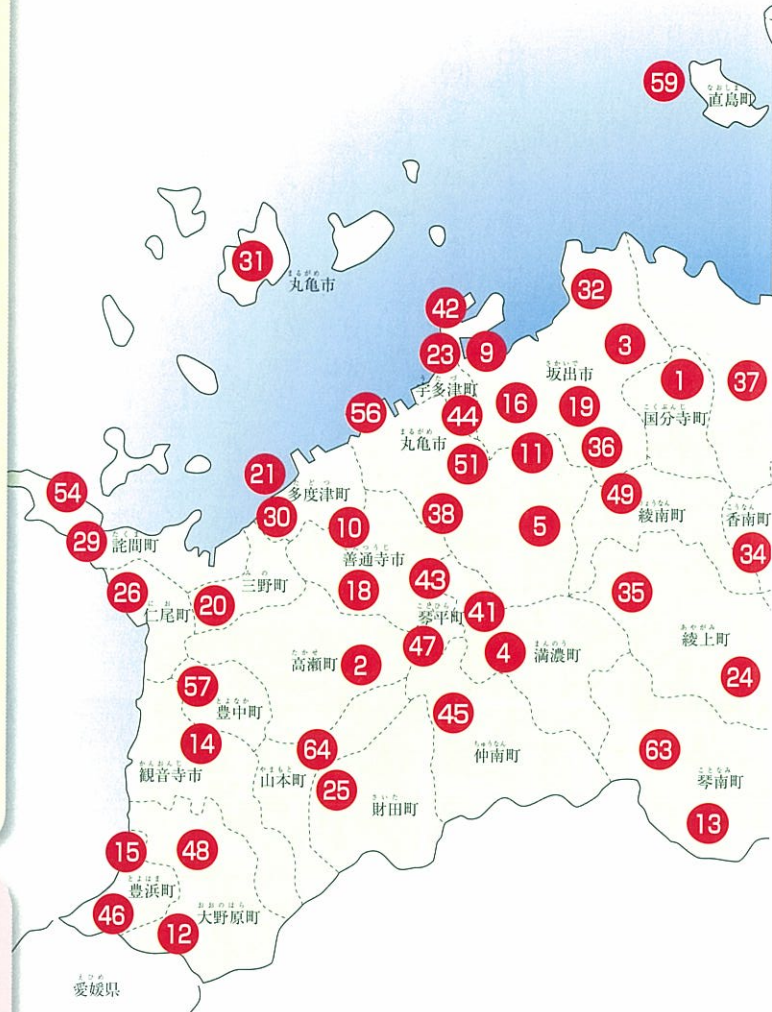
- |    |              |          |
|----|--------------|----------|
| 1  | 国分寺のかね       | (国分寺町)   |
| 2  | 傾き山の話        | (高瀬町)    |
| 3  | だいだらぼっち      | (坂出市)    |
| 4  | エビの先祖        | (満濃町)    |
| 5  | 駒止地蔵         | (丸亀市綾歌町) |
| 6  | 五剣山と源氏が峰のけんか | (牟礼町)    |
| 7  | 太鼓台          | (庵治町)    |
| 8  | 油のわき出る山      | (香川町)    |
| 9  | しゃみじま        | (坂出市)    |
| 10 | あおさぎの井戸      | (善通寺市)   |
| 11 | いいの山と青の山     | (丸亀市飯山町) |
| 12 | いっぽうさん       | (大野原町)   |
| 13 | 中熊のガキマチ      | (琴南町)    |
| 14 | 八幡様と観音様      | (観音寺市)   |
| 15 | あずき洗い        | (豊浜町)    |

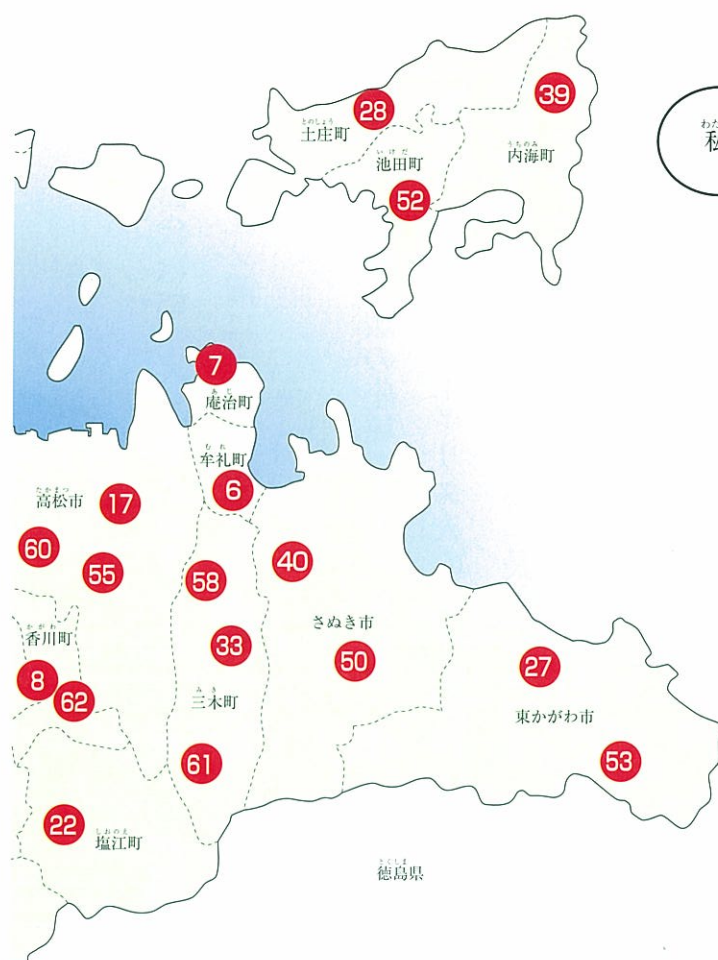
【しあわせになった話】

- |    |            |         |
|----|------------|---------|
| 16 | 城山の長者      | (坂出市)   |
| 17 | 一つ目大入道     | (高松市)   |
| 18 | ほやけ地蔵      | (善通寺市)  |
| 19 | 彦六長者       | (坂出市)   |
| 20 | 弓名人森久右衛門   | (三野町)   |
| 21 | 雨ごい地蔵      | (多度津町)  |
| 22 | かりこ牛       | (塩江町)   |
| 23 | 切られ地蔵さん    | (宇多津町)  |
| 24 | 力持ちの兜衛門    | (綾上町)   |
| 25 | 俵藤太と竜神様の約束 | (財田町)   |
| 26 | 父母峠のお地蔵さん  | (仁尾町)   |
| 27 | 絵からぬけでた子馬  | (東かがわ市) |

【とんち・わらい話】

- |    |            |         |
|----|------------|---------|
| 28 | 茶ぼうず (カッパ) | (土庄町)   |
| 29 | なまこのやいと    | (詫間町)   |
| 30 | ぐつつ        | (多度津町)  |
| 31 | 竹三本のぶに     | (丸亀市広島) |
| 32 | おおけなおなら    | (坂出市)   |
| 33 | オオカミとぶり    | (三木町)   |
| 34 | 風呂屋のはなし    | (香南町)   |
| 35 | 天にのぼった男    | (綾上町)   |
| 36 | がばの話       | (坂出市)   |





これだけしかないのかな？



わたしのまちには、違うお話があるわ。



【動物の出てくる話】

- 37 はげさんダヌキ (高松市)
- 38 さるのむこ入り (丸亀市)
- 39 オオカミの恩返し (内海町)
- 40 ネコだんか (さぬき市)
- 41 三びきのサル (満濃町)
- 42 沙弥のかわうそ (坂出市)
- 43 タヌキの嫁入り (琴平町)
- 44 とっくりかえし (宇多津町)
- 45 山んばとてんまる (仲南町)
- 46 寺山のすもうとりだぬき (豊浜町)
- 47 じょじょうろうダヌキ (琴平町)
- 48 きね造りダヌキ (大野原町)
- 49 おろくダヌキ (綾南町)
- 50 たぬきのおいかり (さぬき市)

【かわいそうな話・こわい話】

- 51 お城の人柱 (丸亀市)
- 52 白浜の大蛇 (池田町)
- 53 魚になったおせん (東かがわ市)
- 54 山んば (詫間町)
- 55 仏生山のあめ (高松市)
- 56 もの言わぬむすめ (丸亀市)
- 57 黄金の島 (豊中町)
- 58 おとく鳥 (三木町)
- 59 火つかずの灯ろう (直島町)
- 60 いわざらこざら (高松市)
- 61 当願と暮当 (三木町)
- 62 ひょうげまつり (香川町)
- 63 石長比売と木花咲久夜姫 (琴南町)
- 64 いりこ商人 (山本町)